

選択科目Ⅱ-1 都市公園

(1) 都市公園を整備する背景と意義

我が国では、人口減少や高齢化社会の当来①及びこの禍を経て社会構造が刻々と変化②していった。これにより、公園の価値が見直されたのは、グリーンインフラ③としてその多面的な活用が求められていった。都市公園は、幅広い世代が自然と触れ合えることが、健康運動等様々な活動の拠点に成りうる。また、近年では地球温暖化への関心が高まっている。グリーンインフラとしての公園整備は、ヒートアイランド現象の抑制④にも期待できる、人々の生活の質⑤を高めるものがある。

- ① 「当来」→「到来」
- ② コロナの影響は刻々というより、急速に変化したと思います。一方、人口減少や高齢化社会の影響は刻々で良いと思います。よって、変化のスピードは書かない方が良いでしょう。
- ③ コロナで公園等オープンスペースの価値が見直されたのはその通りですが、グリーンインフラとしての多面的な活用は、コロナウイルス感染拡大前から取り組まれています。間違いとは言いきれませんが、つながりが弱い感じがします。
- ④ 地球温暖化を受けてのヒートアイランドであれば、違和感があります。温室効果ガスの抑制→CO2 吸収源としての効用、ヒートアイランド抑制→遮熱、蒸散作用による効用です。
- ⑤ 「生活に」→「QOL 向上に」

(2) 活用される場面

① 地域防災⑥としての活用は公園は地震時の後方支援拠点化⑦や火災時の市街地延焼を防ぐ効果がある。また、公園内に雨水貯留施設を整備することで雨水流出抑制⑧を回すことができる。さらに、マンホールトイレ等の整備により防災公園⑨としての機能も果たせる。

- ⑥ 背景で触れていないですね。「地域防災」→「防災施設」
- ⑦ 説明ないと分かりづらいです。
- ⑧ 単なる占有物の効果です。よって、緑の涵養効果にも触れた方が良いでしょう。

⑨ 「防災公園」 → 「避難施設」

⑨ レクリエーション空間としての活用：競技場やマレットボール場の整備により⑩ 79世代の住民に剣道やスポーツを楽しむ機会を提供する。また、ウォーキング等の健康づくりの場を提供⑪する。

⑩ スポーツ施設の整備をすることが条件のように見えますが、公園整備そのものがレクリエーション機能を備えているものと理解しています。

⑪ この記述は良いと思います。高齢化が進んでいるといった前段の背景を受けて、健康づくりの場として今後一層活用されるという、この論調は解答にふさわしいと考えます。他の項目もこのような記述が良いと思います。

⑨ 子育て、教育としての活用：都市公園法の改正により、公園内の保育所が設置される。子供が自然に触れ合える体験型教育施設⑫が容易に実現することができ、また公園内でも多世代の住民と教育を通じて関係するこどもが⑬学校教育の補完⑭が期待できる。以上

⑫ 公園の設えによるものではありませんか。

⑬ なぜ多世代の住民と関係を持つことができるのか分かりません。

⑭ 学校教育法の定義では、保育所は学校に含まれません。保育所は児童福祉施設です。